# SF36・腎移植患者の移植前後の健康QOLの変化
## －第２報－

石郷岡京子、小坂智子、三浦ひで子、熊谷房子
齋藤　満*、土谷順彦*、佐藤　滋*、羽渕友則*
秋田大学医学部附属病院２階西病棟
秋田大学医学部生殖発達医学講座泌尿器科学分野*

＜はじめに＞

腎移植後患者を対象に行ったQOL調査には多数の報告があるが、移植前から継続して経過を追ったQOL調査は少ない。私たちは、当科で生体腎移植を受けたレシピエントに対し前年度、SF－36を用いたQOL調査を実施し、移植前と移植後３ヶ月のQOLを比較した。田村ら[1]は、「移植後１年のQOL評価は上昇しており、これは、１年をめどに、身体的にも、精神的にも回復してきている状況を示している」と述べている。そこで今回は、当科の腎移植患者のQOLが、移植後経過期間によって異なるのか、移植後１年のQOL調査を実施し、移植前、移植後３ヶ月のQOL評価と比較検討したので報告する。

＜Ⅰ　研究目的＞

移植前、移植後３ヶ月、移植後１年のQOLの経時的変化を比較検討する。

＜Ⅱ　研究方法＞

１．対象：当科で生体腎移植を受けた９例
２．期間：平成15年11月～平成17年３月
３．方法：移植前、移植後３ヶ月、移植後１年の上記患者に対し、日本語版SF－36（V1.2）質問票を渡し、自己記入方式にて調査。手渡しが不可能であった患者に対しては、郵送配布した。

＜Ⅲ　結果＞

１．対象の背景
　性別：男性５名、女性４名
　平均年齢：49歳（31歳～64歳）
２．SF－36の結果
　SF－36を用いて、QOLをスコアー化し、身体機能（PF）、日常役割（身体）機能（RP）、体の痛み（BP）、全体的健康観（GH）、活力（VT）、社会生活機能（SF）、日常役割（精神）機能（RE）、心の健康（MH）、これら８つのサブスケールで９人の国民標準値による平均偏差値を算出した。これをもとに、移植前、移植後３ヶ月、移植後１年の値の変化を検討した。また、PCS（身体的健康の度合）とMCS（精神的健康の度合）に分類し、比較した（図１～３）。

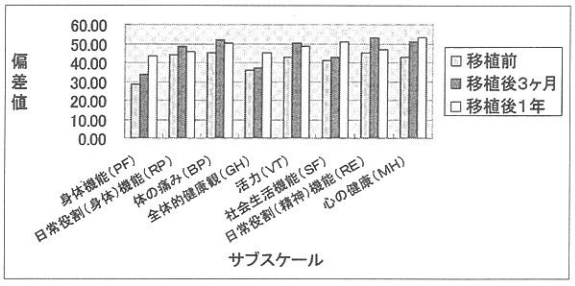


図1．移植後経過期間による比較

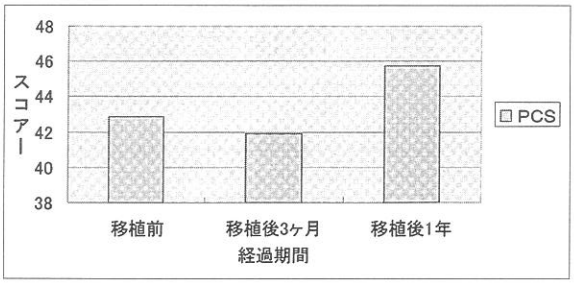


図2．PCS（身体的健康の度合）

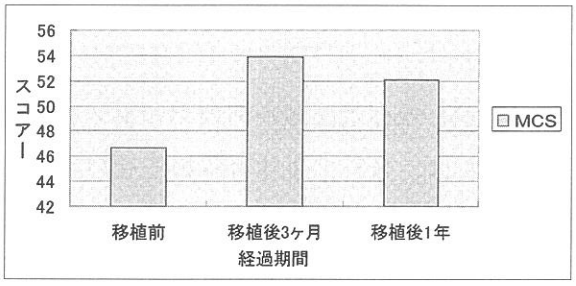


図3．MCS（精神的健康の度合）

- 移植前と移植後1年とを比較した結果、すべてのサブスケールで移植後1年での数値が上昇傾向であり、全体的健康観（GH）で有意な上昇が認められた。（p＝0.011）
- 社会生活機能（SF）、心の健康（MH）は、移植後経過期間が長くなるにつれ、増加傾向であり、国民平均値に達していた。
- 身体機能（PF）、全体的健康観（GH）は、移植後経過期間が長くなるにつれ、増加傾向であるが、国民平均値に達していなかった。
- 日常役割（身体）機能（RP）、体の痛み（BP）、活力（VT）、日常役割（精神）機能（RE）は、移植後3ヶ月の時点と移植後1年は、ほぼ同等であった。
- PCS（身体的健康の度合）は、移植後1年の時点でほぼ国民平均値と同等に回復していた。
- MCS（精神的健康の度合）は、移植後3ヶ月の時点でほぼ国民平均値と同等に回復していた。

## ＜Ⅳ　考察＞

林ら[2]は、「腎移植は、器械に依存して生活を維持しなければならない人工透析よりも、慢性腎不全患者のクオリティオブライフを高めることで期待される治療法である。」と述べている。今回の調査でも、移植前と移植後1年とを比較した結果では、すべてのサブスケールにおいてスコアーは上昇傾向であり、全体的健康観（GH）では有意な上昇を認めた（p＝0.011）。慢性腎不全は不可逆的疾患であり、週3回の透析療法を終生継続しなくてはならない。しかし、腎移植により、透析療法による時間の制限、水分や食事の制限、苦痛から解放され、身体的、精神的拘束がなくなったため、満足感・幸福感が得られ、スコアーの上昇につながったのではないかと考えた。また、全体的健康観（GH）で有意な上昇を認めたことにより、移植前は、自分は不健康であり、徐々に悪くなると悲観的思考であったのに対し、移植後1年では国民平均値にはまだ届かな

いものの、順調にスコアーが上昇していることから、自分は健康であると感じることができていると考えた。

次に、PCS（身体的健康の度合）とMCS（精神的健康の度合）を比較した結果、PCSは、移植後1年の時点でほぼ国民平均と同等に回復しているのに対し、MCSは、移植後3ヶ月の時点でほぼ国民平均と同等に回復している。このことより、精神的健康は透析療法から解放されることにより、早期に回復することが分かる。一方、身体的健康は移植後3ヶ月の時点ではまだ回復していない。その理由として、移植後3ヶ月までの間は、拒絶が起こりやすい時期で、免疫抑制剤も多く内服しており、感染しやすい状態である。また、術後の経過が短いため、体の痛みや疲労感があるためではないかと考えた。

身体機能（PF）、全体的健康観（GH）は、国民平均値に達していないが、移植後経過期間が長くなるにつれ、増加傾向である。移植後1年は腎機能が安定する維持期と言われており、相川[3]は、「移植者の身体能力は、特に運動しなくても1年後には透析時に比べ約30％も向上する」と述べている。移植後1年は、体力が回復し、日常生活の制限もなくなる時期であるため、経過が経つにつれ、今後も上昇が期待できると考えた。

前田ら[4]は、「移植腎の生着年数が長ければQOLスコアーも上昇する」と述べている。今回の調査は対象数が少ないため、統計学的に有意差が出にくかったが今後もこの調査を継続し、患者のQOL状態を的確に把握し、看護の質の向上につなげていきたい。

＜Ⅴ結論＞

1．移植後1年では、移植前と比較し、すべてのサブスケールにおいてスコアーの上昇を認めた。また、全体的健康観（GH）で有意な上昇が認められた。（$p = 0.011$）当科でも腎移植は人工透析よりもQOLを高める治療法である。

2．MCS（精神的健康の度合）は移植後3ヶ月の時点でほぼ国民平均と同等に回復する。精神的健康は透析療法から解放されることにより、早期に回復する。

3．身体機能（PF）、全体的健康観（GH）は、国民平均値に達していないが、移植後経過期間が長くなるにつれ、増加傾向である。移植後1年は維持期であり、体力が回復し、日常生活の制限もなくなる時期であるため、今後も上昇が期待できると考えた。

## 引用・参考文献

1）田村　恵他：SF－36を用いた腎移植患者のQOL評価、第37回日本臨床腎移植学会：84-85、2004

2）林　優子他：腎移植を受けたレシピエントの背景とQOLに関する調査、岡山大学医学部保健学科紀要12：37-44、2001

3）相川　厚：移植者の運動について、知って役立つ医療生活情報、ぜんじんきょう：188（4019）、2001

4）前田景子他：腎移植患者と透析患者の QOL を検討する～ SF36を用いて～、第37回日本臨床腎移植学会：89-90、2004
5）佐越祐二他：腎移植患者の移植前後の健康 QOL の変化－ SF36を用いて－、第38回日本臨床腎移植学会：122-125、2005
6）福原俊一：SF －36日本語版マニュアル（V1.2）健康関連 QOL 尺度、（財）パブリックヘルスリサーチセンター：2001